

論

『ストレスチェック制度を活用した医療従事者のメンタルヘルス対策』

壇

東邦大学医療センター佐倉病院
産業精神保健・職場復帰支援センター長・教授

小山文彦氏

1 はじめに

2014年6月の労働安全衛生法一部改正により、常時従業員50人以上の事業場において「ストレスチェック制度」が義務化され、2016年12月1日より施行となった。この制度の目的は、うつ病等メンタルヘルス不調の一次予防であり、具体的には、高ストレス判定を受けた労働者が自身の申し出を通じて産業医等による面接指導を受け、必要であれば専門医への受診や当該職場環境の改善等へと事後措置が進む(図1)¹⁾。法定下、ほぼ一律な方法による心理ストレスに関する調査・事後対応・行政への実施報告との流れを持つメンタルヘルス対策は、他国に類を見ないものであり、厚生労働省は本制度を契機とした総合的なメンタルヘルスの保持増進を図りたいとしている。初年度には、多くの事業場が本制度始動への準備から実施、事後措置について多少の混乱もありながらも、まずは一通りの過程を体験し、今後は一次予防から総合的なメンタルヘルス向上に向けた対策へと向かう流れにある。

本稿では、このストレスチェック制度を契機とした実効的な不調予防対策上のポイント、特に医療従事者のメンタルヘルスの現状および私立医科大学を中心とした医療機関における今後の取り組み方について論じてみたい。

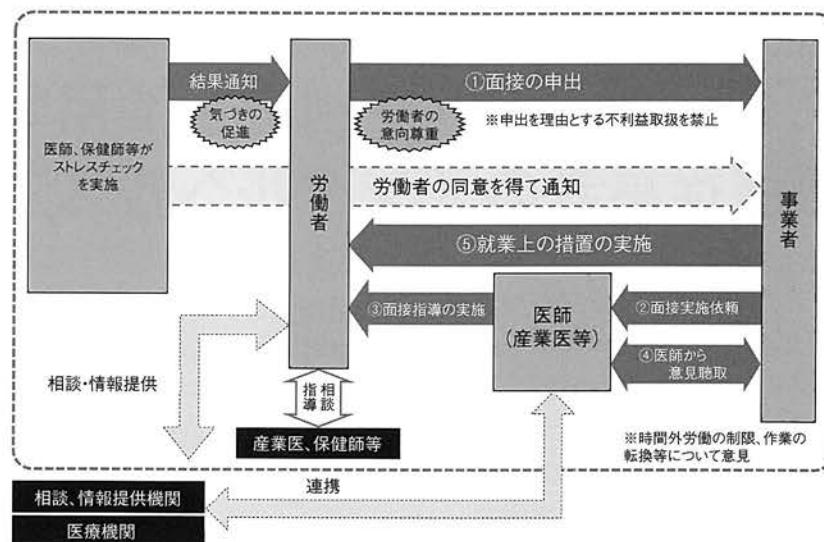
2 ストレスチェック制度と不調予防対策

(1) 労働に伴う心理的負荷と心理的負担

ストレスチェック制度において、「高ストレス者」と判定される労働者は、概して、仕事の心理的負担

とストレス反応が強く、職場におけるサポート(心理的な支持)を享受できている感覚が強くない者と換言される。うつ病等の精神変調をめぐる労災認定の判断では当該労働者が受けた心理的負荷について斟酌、協議されるが、ストレスチェック制度において焦点が当てられるのは心理的負担である。一般に、本制度で用いられる職業性ストレス簡易調査票のような自己記入式調査結果は主観によるものであり、客観的な労働・心理的負荷よりもむしろ個々の心理的負担が反映される。そのため、抑うつに関する評価の面では、生物学的指標等による客観的評価と乖離するケースの存在も推測されるが、臨床および産業保健現場において職場環境や蓄積疲労の影響による不調者は少なくなく、また、本来、適応障害の診断においても自覚的ストレスの存在が根幹になることから、チェック結果を重視すべきことは言うまでもない。しかしながら、この法定チェックが始動し、例年同様な調査が行われるとなれば、今後、うつ病等の予防強化を図るために負担と併せ負荷への充分な衛生配慮を付加すべきであろう。いわゆる bio-psycho-social の三位一体となった対策が求められる。

まず、負荷の視点から重要なのが、多くの生物学的知見が支持する不眠とうつ病との関連性に着眼したアプローチである。HPA系(視床下部-下垂体-副腎皮質系)の活動性亢進および前頭葉機能低下は両者の近縁性を説明し、疫学的にも強い相関が指摘され続けている。この知見を産業保健のフィールドに展開すれば、健康リスクが高まるレベルの時間外労働の基準は、健康被害を招く睡眠不足の限界から逆算したデッドラインにてマッチする。



【図1】ストレスチェック制度の流れ（厚生労働省）

具体的には、月間時間外労働 100 時間以上の職業生活においては、連日 4 時間以下の睡眠しかとれていないこととほぼ同義であり、この状況は、HPA 系亢進による高コルチゾールを招くレベルの負荷となる。さらに不眠は生活習慣病リスクとも関連するため、THP (total health promotion plan) に立ち返るかのごとく睡眠衛生を軸とした保健指導がスペクトラムの広い予防につながることは支持されるところであろう²⁾。筆者らが過去に行った一般健診・ドック受診者を対象とした先行研究では、ハミルトンうつ病尺度の構造化面接 SIGH-D にある睡眠の項目 (insomnia score; IS) は、抑うつ等心理的ストレス反応の強さと有意に相關していた。この予備調査においても、労働者約 5,000 名の抑うつの強さに有意に影響した説明変数は問題不眠 (IS ≥ 3) であった。これらの知見を基に、睡眠・疲労・勤務状況等に関する問診を健康診断・人間ドックの現場で活用した予防医療モデルについて検証し、筆者らの医療センターにおいても職員の健康管理に向けた活用について検討を始めている。

(2) 医療従事者のメンタルヘルス対策におけるポイント

ストレスチェック制度が成立するまでの過程において、その発端となった 2009 年 4 月当時の厚生労働大臣の発言には、うつ病等による労働者の休業や過労自殺等による経済損失の大きさ（当時 2.7 兆円）や精神障害による労災認定事案が過去最多となったこと、ならびに年間 3 万人を超えていた自殺の問題が挙げられた。これに関連し、職業小分類別自

殺者の統計では「医療・保健 (1.13%)」は、専門技術職 (2.86%) の内で最多（平成 26 年度）であり、医師の自殺は他の職業の 1.3 倍となっている。近年の自殺者全体における原因・動機は、健康問題、経済・生活問題、家庭問題、勤務問題の順に多いが、医師の場合に着眼すべき点は、経済・生活問題よりも勤務問題であり、自殺と過労との関連に注視すべきであろう。やはり、実働時間外労働の把握が困難であることや管理職との扱いからも長時間残業の潜在、常態化があり、ワーカホリック（仕事中毒）は責められず、ある意味正当化される傾向も否めない。かつ、長時間労働以外に、責任重大、対人関係の問題、徒労感（努力一報酬不均衡）、燃え尽き、identity crisis（自己喪失）も身近に存在する現象と思われる。前述の不眠とうつとの近縁性からも、特に医療従事者については、ストレスチェック制度と並行した過重労働対策、睡眠衛生に注力すべきだと考えられる。

次に、心理・社会環境の視点からは、多忙な職業生活においてストレス対処に重要とされるレジリアンス（心の弾力性）等のポジティブ心理教育が重要性を増している。しかしながら、これらの衛生概念は、各労働者のセルフケアのみで獲得できるものではなく、いわば労働者個人のポジティブと職場環境からのポジティブとの相互補完から生まれるものであり、労働契約の基本に立ち返ることとも重なってくる。これまでの心的外傷（トラウマ）に関する研究において「サバイバー」と称される人々とは、トラウマを背負っても精神変調をきたさない子供たちや、大災害等に見舞われても肯定的な認知行動パ

 勤務医の健康を守る病院7カ条	 医師が元気に働くための7カ条
その1 医師の休息が、医師のためにも患者のためにも大事と考える病院 必要な睡眠時間や少なくとも週1回の休日がされる体制が必要です。	その1 睡眠時間を充分確保しよう 最低6時間の睡眠時間は質の高い医療の提供に欠かせません。患者さんのために睡眠不足は許されません。
その2 挨拶や「ありがとう」と笑顔で声をかけあえる病院 挨拶から始まる良好な人間関係こそが職場の財産です。	その2 週に1回は休日をとろう リフレッシュすればまた元気になります。休日をとるのも医師の仕事の一環と考えましょう。
その3 厳力や不当なクレームを予防したり、組織として対応する病院 事例の多くは組織的対策により予防や早期解決が可能です。	その3 頑張りすぎないようにしよう 慢性疲労は仕事の効率を下げ、モチベーションを失わせます。医療事故や突然死にものながり危険なのでやめましょう。
その4 医療過誤に組織として対応する病院 医師個人の責任ではなく、組織としての対応が医師・患者に必要です。	その4 「うつ」は他人事ではありません 「勤務医の12人に1人はうつ状態」。 うつ状態には休養で治る場合と、治療が必要な場合があります。
その5 診療に専念できるように配慮してくれる病院 業務の効率化・被曝者の導入などで負担が減ると、診療の効率もあります。	その5 体調が悪ければためらわず受診しよう 医師はとく自分で診断して自分で治そうとするもの。しかし、時に判断を誤る場合もあります。
その6 子育て・介護をしながらの仕事を応援してくれる病院 柔軟な勤務時間・妊娠・育児中の勤務軽減、代替医師の確保が望まれています。	その6 ストレスを健康的に発散しよう 飲んだり食べたりのストレス発散は不健康のもの。 運動(有酸素運動や筋トレ)は健康的なストレス発散に最も有効です。 週末は少し体を意識的に動かしてみましょう。
その7 より快適な職場になるような工夫をしてくれる病院 清潔な更衣室や休憩室、軽食がすぐに食べられる元気がわきます。	その7 自分、そして家族やパートナーを大切にしよう 自分のののち、そしてかけがえのない家族を大切に。 家族はいつもあなたのことを見守ってくれています。

【図2】日本医師会「勤務医の健康の現状と支援の在り方に関するアンケート調査」(2009年)より

ターンを保ち健康に暮らす人たちのことを指すが、彼らのメンタル・タフネスへの到達には、各人の柔軟な気質に加え保健指導等からの学びが必要だとされる。日々の健全な生活習慣のための物理的なゆとりや、医業辺縁の出来事、医業以外のストレス要因(兼業の多さ、クレームやモンスター対応等)への組織的処理が担保された上でこそ、ポジティブ・ヘルスと働きがいは守られるのであろう。日本医師会は、「勤務医の健康の現状と支援の在り方に関するアンケート調査」(2009年)³⁾に基づき、「勤務医の健康を守る病院7カ条」ならびに「医師が元気に働くための7カ条」を提唱している(図2)。

3 ストレスチェック制度が活きる職場風土の醸成

筆者自身が産業医を務めるにあたり今まで重要な視していることは、メンタルヘルス問題に関する専門的な疾病性の判断以外には、概ね以下の3つに整理される。

(1) 産業医と一般職員との日常的な関係づくり

まず、産業医と一般職員との日常的な関係づくりである。当初は健診後に有所見者との面接を保健師とともにを行い、指導や専門医への紹介の場面では、行動変容を急がず生活基盤や習慣を汲みながら対話するよう心がけた。次第に、事業場の敷地内、休憩所、安全衛生会議などで既知の間柄を増し、勤務状況が特に過酷なグループと一人一人面談するなど、日頃から馴染んでおくことは、のちに受診勧奨など何らかのアクションを円滑化させることも経験する。

(2) 管理監督者との相補的な関係と距離感

その上で大切なことは、管理監督者との相補的な関係と距離感である。ただ馴染むのではなく、目指す存在意義として企業全体の種々のリスクを軽減させることに医学的協力するポジションを当然ながら意識している。仮に、メンタルヘルス不調者の回復を待ちきれず、雇用上の存在をスパイルする(損なう)ようなことが、何故企業にとってリスクか?場合によっては、業務上の心理的負荷を推し量る労災認定上の「出来事」になる場合もあり、労災の未然防止策として相談に乗ることは、中立的な立場を固めるのに

有益だと感じている。

(3) 配慮と遠慮

併せて、配慮と遠慮であろうか。同じ事業場の中でも、オフィスやクリーンルームと粉塵舞う建屋において4S(整理・整頓・清潔・清掃)を指摘する際、後者を叱ることを躊躇ったが、安全衛生管理上、その散らかりは容認されない。身なりに気を留めることも憚られ作業着衣に乱れがあるがために「巻き込まれ」の危険があるのと同様に、厳しく是正しなければならない。併せて、産業医が進言・注意をどのようにリーダー達に伝えるか?等、配慮にも遠慮にも加減が求められる。

以上の(1)~(3)を実践した場合、そのアウトカムとして一次予防ツールが活きる職場風土の醸成につながると思われる。前述の如くストレスチェック制度は一次予防を謳うが、それを契機とした総合的なメンタルヘルスの増進が目的である。労働者が、自身の健康問題について産業医等との面接や受療が日頃からあたりまえの職場風土が望まれる⁴⁾。

4 医療従事者のメンタルヘルス対策—ストレスチェック制度の活用と今後の課題—

東邦大学医療センター佐倉病院においては、2010年度から職業性ストレス調査票を基にしたシステムを使用し、職員のストレスと職場健康度の調査を行ってきた。ハイリスクと判定された職員にはintraメールを用いて健康管理室への来室を促し、ストレス等に関する相談体制を研修等にて周知を図った。2016年9月14日から11月18日にかけて

法定ストレスチェックを施行し、職員1,037名中1,033名(99.6%)が受検した。高ストレスと判定された者は111名あり、面談を促す連絡に対し返信があった18名と直接に来室した4名の計22名から早期に反応があり、その後も面談を促す連絡により翌1月末には計38名から連絡があった。集団分析の結果、医師については仕事の量的負担は全国平均に比べ高く、仕事のコントロール(裁量等)は低い結果であったが、職場で受ける支援については全国平均に比べ「上司から」「同僚から」とともに高い結果であり、職場の健康リスクは91(対100比)であった。事後措置の結果、先に述べた4名は面談を行ったが、休業・就業制限等の措置を講ずる必要ないと判断された。健康リスクが高い(100以上)11部署にはストレス等の聞き取りを実施し、各職場の問題把握に努めている⁵⁾。

ストレスチェック制度のアウトカムが、職場環境改善に主眼を置いた一次予防であるため、当院では部署ごとの集団分析結果等を基に管理職対象にマネジメント研修を試みている。医療・教育機関ならではのストレス特性を踏まえた各職員のセルフケア(個人レベルのポジティブ)と各部署および事業場(大学附属病院)におけるマネジメント(職場環境のポジティブ)にわたる安全衛生領域の知識習得が目的である。具体的には、生物学的知見に根差した睡眠保健の重要性⁶⁾やレジリエンス、SOC(sense of coherence)等のポジティブ心理教育に併せ、作業・

医療機関で医師の就業環境改善として取り組むに値する項目(和田)

- 1.キャリア満足度の維持
- 2.同僚医師やコメディカルとの良好な関係
- 3.患者との良好な関係づくりを心がけ、患者ニーズや訴訟の可能性に組織として対応
- 4.一人一人の労働負担が過剰にならない
- 5.労働と生活の時間のバランスがとれる
- 6.診療業務以外の管理的な仕事の負担を軽減
- 7.診療に必要な資源について医師の意見を聞きながら改善
- 8.公平な給与体系や必要な手当てを支給

医療従事者のメンタルヘルス改善のための視点(吉川)

- A. スタッフの健康支援策
- B. 勤務時間と休憩、休日、休暇
- C. 勤務環境の改善
- D. 業務手順ストレス軽減
- E. 気持ちのよい仕事の進め方
- F. 安心できる職場のしくみ

過重労働対策·THP 医療以外のストレス対策 職場環境・作業環境調整 キャリア・生活基盤

【図3】 医療機関における就業環境改善の要点

職場環境改善に向けては、仕事の量的負担、仕事のコントロール、上司からの支援、同僚からの支援についての点検・対処項目を具体的に提示している。この研修プログラムをまとめる過程において、医療従事者のメンタルヘルス改善のための視点⁷⁾等に挙げられている、適切な勤務時間と休養、業務手順改善、医療以外のストレスへの対処、健康支援体制の構築等が特に重要だと感じている(図3)。

今後は、東邦大学各医療センター間で、ストレスチェックの実施および事後対応について協議を重ね、大学附属病院における総合的なメンタルヘルス対策のモデルを提案できればと考えている。

引用文献

- 1) 厚生労働省 労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度実施マニュアル.
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei12/pdf/150507-1.pdf> (2017年4月17日閲覧)
- 2) 小山文彦. 特論 勤労者のうつ病、自殺の現状と対策. 日本臨牀 72(2):328-332, 2014.
- 3) 日本医師会 勤務医の健康支援に関するプロジェクト委員会「勤務医の健康の現状と支援の在り方に関するアンケート調査報告書(2009年)」
http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20090902_32.pdf (2017年4月17日閲覧)
- 4) 小山文彦. 特集「企業に信頼される専門職はここが違う」3.精神科医が信頼されるために実践していること. 産業精神保健 25(1), 9-11, 2017.
- 5) 桂川修一, 小山文彦, 時田陽子, 米倉歩, 龍野一郎, 黒木宣夫. ストレスチェック制度の実施から見えてきたこと—医療従事者のメンタル支援活動の報告—. 産業精神保健 25(2), 2017 (in press).
- 6) 小山文彦. 睡眠とメンタルヘルスの関係. 産業精神保健 24 特別号 職域でみられる多様なストレスとその対応. 21-25, 2016.
- 7) 吉川徹. メンタルヘルス向上のためのアクションチェックリストの活用. 相澤好治監修、和田耕治編著: 医療機関における産業保健活動ハンドブック. 東京: 産業医学振興財団, 2013: 64-68.

施設紹介

医科大学が果たす役割・使命は、医療の中核的病院としての地域社会の要請、医療技術の進歩等に伴い、社会的重要性は一層高まりつつある。なかでも、高度医療機関かつ医育機関として、充実した機能を備えた大学施設等が、新時代を担うものとして強く望まれている。本誌では、新・増築された協会加盟各大学施設を順次紹介している。

自治医科大学 附属さいたま医療センター新外来棟竣工



さいたま医療センター新外来棟外観

自治医科大学附属さいたま医療センターでは、経年による施設設備の老朽化や診察室等の外来ゾーンの狭隘化を解消するため、外来棟をセンター本館北側に整備することとなり、平成 27 年 7 月に着工、約 1 年 3 ヶ月の工期を経て平成 28 年 10 月に無事竣工しました。

建物は鉄骨構造（一部鉄筋コンクリート構造）、地上 3 階建て、延べ床面積 7,625 m²で一般外来、専門外来、リニアック室、オンラインコロジーセンター等を配置し、高度化、多様化する医療ニーズへの対応と患者アメニティ及び利便性に配慮した設計となっています。

外来棟の特筆すべきこととして 1 階にアートスペース “J's PLACE” を設け、銅版画家の山本容子氏による縦 2 メートル幅 10 メートルのアクリル画



1 階アートスペース “J's PLACE” に展示されている
『沼の歌 シチリアーナ』

『沼の歌 シチリアーナ』を展示していることが挙げられます。また、他のフロアにも同氏の絵画を飾り、患者と職員の心を和らげる空間づくりに努めました。

東京女子医科大学

教育・研究棟竣工



教育・研究棟外観

平成28年9月23日に教育・研究棟が竣工しました。教育・研究棟は、地上5階、延べ面積3,990.16m²で、1階は更衣室と医局ゾーン、2階、3階は医局ゾーン、4階は教授室と医局ゾーン、5階は講座主任室を配置し、カンファレンス室や応接室、給湯室、ラウンジ・リフレッシュコーナーを各階に設けています。医局ゾーンは、総合医局とし、診療科間の壁をなくし、互いにアクセスしやすいスペースとなっています。また、3階では、女子医大通りを横切る地上通路と連絡しており、総合外来センター、中央病棟、第一病棟にもアクセスしやすくなっています。なお、職員証は入館証と一体化したICカードとし、共用複合機の利用もICカードにて管理する等、利便性の向上を図っています。

この教育・研究棟は、医師間の交流を促進する場の提供が非常に重要であるとの認識により、点在していた医局機能を集約した建物です。今後は各診療科が強く連携し、創立以来の理念である至誠と愛、一番大切な医療安全を心に刻み、さらに安全で質の高い医療の提供を目指して参ります。



スタッフエリア（総合医局）



カンファレンスルーム

昭和大学

富士吉田スクエアガーデン完成・オープン



富士吉田スクエアガーデン外観

昭和大学富士吉田キャンパスにおいて、平成 28 年 10 月 24 日に講堂機能を持った体育館である富士吉田スクエアガーデンが完成、オープンしました。

多目的に利用される施設

新しく完成したこの施設は富士吉田キャンパスの体育施設としてだけではなく、照明、高輝度プロジェクターなどの舞台装置を持ったステージを設け、約 800 席の可動椅子と 2 階の約 200 席の観覧席を合わせ約 1000 人を収容でき、学内の行事だけではなく、各種イベント、講演会など開催できる多目的施設としての機能を有しています。

新しいキャンパス景観の形成

勾配屋根とレンガ調タイルの外壁が落ち着いた姿を見せ、この建物の完成と同時に 60 m 四方のバスロータリー、建物の正面を演出する池と噴水で飾られた大階段、遊歩道などキャンパス外構の整備も行い、富士の森の中に広がりをもった新しいキャンパス景観が新たに生まれました。

災害に対応する安全、安心の施設

また富士山噴火時の避難施設としての利用を想定し、屋根は急勾配として火山灰の落下を促し、飛来が想定される火山礫を考慮し 2 重鋼板の屋根、強化ガラス窓を採用し、災害時に安心して待機できる場所を提供します。

厳しい自然との共生

寒冷な気候と共生するために十分な断熱材、断熱サッシの採用、給水管、配管の凍結防止などの対策を施し、ガス焚放射暖房機により活動エリアへの無駄のない快適環境を提供しています。



多目的に利用される施設



景観の形成

帝京大学

医学部附属溝口病院新病院竣工



溝口病院外観



溝口病院ロビー

帝京大学医学部附属溝口病院は、1972（昭和47）年に一般民間病院を譲り受けた以来、地域医療を最も大切にする帝京大学医学部附属病院、第二の大学病院として歩んできました。

この度、2017（平成29）年5月に東急線高津駅前に新病院を建設いたしました。

新しくなりました帝京大学医学部附属溝口病院は、土地8,873m²、延べ床面積39,750m²の環境の中で、許可病床数400床の入院棟と外来・管理棟の2棟で構成されています。入院棟は免震構造で地震などの災害に強く、病室、手術室（8室）、HCU（ハイケアユニット）、SCU（脳卒中ケアユニット）など患者の皆様が安心して入院できるように配慮されており、また、コージェネレーション・システムを導入しエネルギーのエコ化を図りました。一方、外来・管理棟には各科外来、救急外来、術前外来、リハビリテーション、問診センター、化学療法室など配置し、地下にコンビニエンス・ストア、1階にカフェ・コーナーを設け患者サービスの向上を図りました。

新病院の建替工事により、手狭であった病院機能の充実を図り、地域に根ざした高度で良質な医療の実践、救急医療体制の拡充、医療人の育成、災害拠点病院としての責務の遂行を目指します。

【建物概要】

階層	外来・管理棟	地下1階～地上7階
入院棟		地下1階～地上12階
延床面積	39,750.44m ²	病床数 400床

【新病院の特徴】

①外来患者呼出システム

患者様にPHS端末をお持ちいただき診察、検査、会計等のご案内をすべてPHS端末で行うシステムを導入致しました。患者様は、各受付の前で待たずしてどこで待っていただいてもご案内することができます。患者様を個人名でお呼びすることもなくなり静かでプライバシーにも配慮したシステムです。

②問診センター

問診を重要視し問診センターを設置しました。問診室で看護師が患者様から直接、問診を受け電子カルテに反映させるシステムを導入いたしました。患者様の病状等の大切な情報を即時に正確に診察に反映することができます。

③術前外来

安全な手術を行うため、手術前に麻酔科が患者様の状態を総合的に判断し、必要に応じて他科の受診等を実施します。

④セキュリティ・システム

入院患者様にとって安心で安全な入院環境を提供できるように、入退室管理システムを導入致しました。患者様はリストバンド、面会者様は面会カード（QRコード）で入院棟への入退室管理を行います。また、監視カメラを館内や敷地内に配備して防犯体制を強化致しました。

順天堂大学

医学部附属浦安病院 3 号館竣工



浦安病院 3 号館外観

地域住民が安心して生活できる医療環境を構築することを目的に、順天堂大学 175 周年記念事業の一環として順天堂大学浦安病院 3 号館増築工事が計画され、3 年の時を経た平成 29 年 5 月 15 日に竣工を迎えることとなりました。

建物は地上 9 階、地下 1 階で、平成 23 年の東日本大震災の経験を活かし、災害拠点病院としての機能を発揮できるよう免震構造とし、ライフラインの充実を図るべく、電気、ガス、水道を 2 系統から補充するシステムを導入、災害時には地域住民が一時的に避難・宿泊できる構造としました。地下 1 階には職員 2,000 人分のロッカーを、1 階にはエントランス、医療福祉相談室、医療連携室、栄養・薬剤相談室からなる患者支援センターを配置し、患者の利便性を確保しました。2 ~ 3 階は外来部門、4 ~ 7 階は病棟を、8 階には総合医局、研修医室を配置し医師、研修医が相互に乗り入れできる環境を整えました。

建物周囲には四季折々に花を愛でることのできるよう植栽を行い、屋上には芝生・低木を植え、エコロジーに配慮しました。3 号館増築により、病床は

132 床増加、総病床数が 785 床となり、各フロアに隔離室も配置しました。外来診察室を増やし、待ち時間の短縮を図りました。3 号館の増築に合わせて、1 号館、2 号館の改修を行い、手術室を 9 室から 12 室に増加し、ダヴィンチ、ハイブリッド手術室を導入、放射線科には IMRT を新設、救急にはこども救急センター、プライマリケアセンターを設置、ICU も増床して救急診療の充実を図りました。地域基幹病院として災害に強く有事の時にも対応できる施設となっております。

[建築概要]

構 造	鉄筋コンクリート造 柱頭免震構造
規 模	地下 1 階、地上 9 階
敷地面積	19,834.72 m ²
建築面積	2,319.75 m ²
延床面積	16,193.03 m ²
病 床 数	196 床

医大協ニュース

岩手医科大学

《役職者の人事》

◎岩手県高度救命救急センター長

井上義博（新任）

平成28年12月1日付

◎大学附属病院副院長

井上義博（新任）

平成29年1月1日付

◎副学長

三浦廣行（再任）

◎大学附属病院副院長

森野禎浩（新任）

◎大学附属病院循環器医療セン

ター長

森野禎浩（新任）

◎大学附属病院 PET・リニアック

先端医療センター長

中村隆二（再任）

以上、平成29年4月1日付

《教授の人事》

◎内科学講座呼吸器・アレルギー・

膠原病内科分野

前門戸任

◎心臓血管外科学講座

金一

◎皮膚科学講座

天野博雄

◎救急・災害・総合医学講座総合

診療医学分野

下沖 収

◎臨床腫瘍学講座

伊藤薰樹

◎リハビリテーション医学科

西村行秀

以上、平成29年4月1日付

日本医科大学

《法人役員》

◎理事長

坂本篤裕（新任）

平成29年1月16日付

◎常務理事

弦間昭彦（新任）

平成29年3月1日付

◎常任理事

伊藤雅治（再任）

平成28年12月17日付

◎理事

猪口正孝（新任）

庄山悦彦（新任）

以上、平成29年4月1日付

《人事》

◎大学院医学研究科長

鈴木秀典

平成29年4月1日付

◎医学部長

小澤一史

平成29年10月1日付

◎基礎科学主任

野村俊明

◎大学院教授

松元秀次（リハビリテーション
学分野）

以上、平成29年4月1日付

◎教授

佐藤直樹（内科学（循環器内科学））

吉田 寛（外科学（消化器外科学））

以上、平成28年10月1日付

◎臨床教授

真島任史（付属病院整形外科・

リウマチ外科）

平成29年4月1日付

◎特任教授

米田 稔

清水一雄

デシュパンデ ゴータム

南 砂

以上、平成28年10月1日付

貝瀬 満

木田厚瑞

山木邦比古

北村 伸

宗像一雄

岡田唯男

岡田 進

草間芳樹

畠 典武

小林士郎

以上、平成29年4月1日付

◎付属病院院長

汲田伸一郎（新任）

平成29年2月1日付

◎呼吸ケアクリニック所長

木田厚瑞

◎健診医療センター長

福嶋善光

以上、平成29年4月1日付

《定年退職》

◎大学院教授

太田成男（先端医学研究所細胞
生物学分野）

◎教授

清野精彦（内科学（循環器内科学））

◎診療教授

岩手医科大学創立 120 周年記念式典・記念祝賀会開催

この度、岩手医科大学は創立 120 周年を迎える。去る 4 月 20 日に政財界や教育界など各界のご来賓、教職員ら約 810 名の列席の下、記念式典及び記念祝賀会を挙行致しました。記念式典ではご来賓の文部科学大臣松野博一様（代理：高等教育局長常盤豊様）、岩手県知事達増拓也様、日本私立医科大学協会会长寺野彰様よりご祝辞を賜り、祝電披露に引き続き本学の小川彰理事長が「岩手医科大学 120 年の歴史～医療の貧困との壮絶な戦い

「地方が故の苦惱と歩み～」と題して記念講演を行いました。講演では、本学創立者三田俊次郎と義弟の三浦直道が明治 40 年（1907）6 月に岩手県に提出した「岩手病院 岩手医学校 岩手看護婦養成所 岩手産婆学校 及ヒ其他ノ事業 十年間經營概要報告」が紹介され、明治 30 年（1897）4 月に私立岩手病院が創設されると同時に開設された医学講習所に於いて、既に、医学教育が開始されていたという事実を重く捉え、同年 4 月を以って本学創立の年としたことが披露され、岩手の医療の貧困に立ち向かってきた先人達の苦闘の歴史や、これから岩手医科大学のビジョンなどが諄々と語られました。

記念講演に続いて、岩手医科大学管弦楽団によるワーグナー作曲「ニュルンベルクのマイスターインガー前奏曲」の重厚な調べが奏でられ、校歌を高らかに斉唱し、閉会となりました。

本学は創立 120 周年記念事業のスローガン「誠のあゆみ、未来へつなぐ」が示すとおり、これからも地域医療の旗手として皆様のご支援の下、力強く邁進していく所存であります。



小川彰理事長の式辞



松野博一文部科学大臣祝辞
(代理: 常盤豊高等教育局長)



小川彰理事長による記念講演



岩手医科大学による祝賀演奏

志和利彦（眼科学）
 ◎病院教授
 草間芳樹（内科学（循環器内科学））
 喜多村孝幸（脳神経外科学）
 畠 典武（内科学（循環器内科学））
 以上、平成29年3月31日付
 《称号授与》
 ◎名誉教授
 清野精彦（内科学（循環器内科学））
 平成29年4月1日付
 《訃報》
 原行弘大学院教授は、平成28年9月18日に逝去されました。享年58。
 岸田浩名誉教授は、平成28年9月23日に逝去されました。享年73。
 浅野伍郎名誉教授は、平成28年10月9日に逝去されました。享年80。

東邦大学

《教授人事》
 ◎教授就任
 桂川修一（精神神経医学講座）
 南木敏宏（内科学講座膠原病学分野）
 以上、平成29年4月1日付
 ◎教授退任
 片田夏也（外科学講座一般・消化器外科学分野）
 以上、平成29年3月29日付
 相川 厚（腎臓学講座）
 金子弘真（外科学講座一般・消化器外科学分野）
 川合眞一（内科学講座膠原病学分野）
 住野泰清（内科学講座消化器内科学分野）
 東丸貴信（臨床生理機能学研究室）
 以上、平成29年3月31日付
 ◎名誉教授称号授与
 相川 厚

金子弘真
 川合眞一
 住野泰清
 東丸貴信
 以上、平成29年4月1日付

東京医科大学

《法人役員》
 ◎理事退任
 池田幸穂
 平成29年3月31日付
 《就任》
 ◎八王子医療センター病院長職務代理
 池田寿昭（八王子医療センター病院機能関連領域特定集中治療部）
 平成29年4月1日付（次期病院長が任命されるまで）
 ◎主任教授
 河合 隆（消化器内視鏡学分野）
 平成28年12月1日付
 近森大志郎（循環器内科学）
 西 洋孝（産科婦人科学）
 大野芳正（泌尿器科学）
 以上、平成29年4月1日付
 ◎教授
 三苦 博（医学教育推進センター）
 平成28年12月1日付
 杉本昌弘（低侵襲医療開発総合センター）
 中澤弘一（麻酔科学分野）
 神保洋之（八王子医療センター外科系分野脳神経外科）
 輪嶋善一郎（八王子医療センター外科関連分野麻酔科）
 阿部祝子（看護学科）
 鈴木良美（看護学科）
 以上、平成29年4月1日付
 ◎事務局長
 小林寿久
 平成29年3月1日付
 《退任》
 ◎八王子医療センター病院長

池田幸穂（八王子医療センター外科系分野脳神経外科）

◎主任教授
 行岡哲男（救急・災害医学分野）
 山科 章（循環器内科学分野）
 井坂恵一（産科婦人科学分野）

◎教授
 神田茂雄（自然科学領域数学教室）
 麦谷眞里（大学機能関連分野医学総合研究所）
 岡谷恵子（看護学科）
 竹内千恵子（看護学科）
 黒田真理子（看護学科）
 高澤謙二（病院機能関連分野健診予防医学センター）
 小泉 潔（八王子医療センター内科関連分野放射線科）
 池田幸穂（八王子医療センター外科系分野脳神経外科）
 今井康晴（八王子医療センター内科系分野消化器内科）

◎臨床教授
 近江明文（八王子医療センター外科関連分野麻酔科）
 以上、平成29年3月31日付
 ◎事務局長
 池本龍二
 平成29年2月28日付

東京女子医科大学

《法人役員の就任》
 ◎理事就任
 新井田達雄
 内渴安子
 以上、平成29年4月1日付
 《教授就任》
 満田年宏（感染制御科教授）
 平成29年3月1日付
 鈴木 滋（東医療センター放射線科教授）
 平成29年1月1日付
 野村岳志（集中治療科教授）
 平成29年4月1日付

神崎正人（外科学（第一）教授・講座主任）
平成 29 年 1 月 30 日付
中村史雄（生化学教授・講座主任）
岡崎 賢（整形外科学教授・講座主任）
馬場園哲也（内科学（第三）教授・講座主任）
熊切 順（産婦人科学教授）
以上、平成 29 年 4 月 1 日付
《教授退任》
内潟安子（内科学（第三）教授・講座主任）
楠田 聰（母子総合医療センター教授）
高桑雄一（生化学教授）
上塚芳郎（医療・病院管理学教授）
上野恵子（東医療センター放射線科教授）
三坂亮一（成人医学センター教授）
斎藤加代子（遺伝子医療センター教授）
以上、平成 29 年 3 月 31 日付

東京慈恵会医科大学

《人事異動》
◎教授
朝比奈昭彦（昇任 / 皮膚科学講座）
平成 28 年 12 月 1 日付
宮崎陽一（昇任 / 内科学講座腎臓・高血圧内科）
内山眞幸（昇任 / 放射線医学講座）
山田恭輔（昇任 / 産婦人科学講座）
鈴木昭広（昇任 / 麻酔科学講座）
以上、平成 29 年 1 月 1 日付
勝沼俊雄（昇任 / 小児科学講座）
木下智樹（昇任 / 外科学講座）
以上、平成 29 年 2 月 1 日付
橋本尚詞（昇任 / 解剖学講座）
石田 厚（昇任 / 外科学講座）
以上、平成 29 年 3 月 1 日付
中山和彦（名誉教授）
常岡 寛（名誉教授）

福田国彦（名誉教授）
尾尻博也（昇任 / 放射線医学講座）
中野 匡（昇任 / 眼科学講座）
清川貴子（昇任 / 病理学講座）
忽滑谷和孝（昇任 / 精神医学講座）
宮田市郎（昇任 / 小児科学講座）
三尾 寧（昇任 / 麻酔科学講座）
矢野真吾（昇任 / 内科学講座腫瘍・血液内科）
繁田雅弘（採用 / 精神医学講座）
渡部文子（昇任 / 臨床医学研究所）
鳥海弥寿雄（昇任 / 外科学講座）
西岡真由美（採用 / 基盤研究施設（分子遺伝学））
以上、平成 29 年 4 月 1 日付

昭和大学

《就任関係》
◎執行役員
板橋家頭夫（就任）
稻垣克記（就任）
高橋 寛（就任）
市川博雄（就任）
門倉光隆（就任）
笠間 毅（就任）
岩波 明（就任）
横宏太郎（就任）
赤堀明人（就任）
◎昭和大学理事
小川良雄（就任）
◎医学部長
小川良雄（就任）
◎昭和大学病院附属東病院病院長
稻垣克記（就任）
◎昭和大学横浜市北部病院病院長
門倉光隆（就任）
◎昭和大学江東豊洲病院病院長
笠間 毅（就任）
◎昭和大学豊洲クリニック院長
新井一成（就任）
以上、平成 29 年 4 月 1 日付
◎医学部内科学講座教授（血液内科学講座）（昭和大学病院勤務）
中牧 剛（就任）
◎医学部内科学講座教授（神経内科学部門）（昭和大学病院附属東病院勤務）
小野賢二郎（就任）
◎医学部内科学講座教授（腎臓内科学部門）（昭和大学藤が丘病院勤務）
小岩文彦（就任）
以上、平成 28 年 12 月 13 日付
◎医学部内科学講座教授（血液内科学部門）（昭和大学藤が丘病院勤務）
原田浩史（就任）
◎医学部外科学講座教授（心臓血管外科学部門）（昭和大学横浜市北部病院勤務）
南渕明宏（就任）
以上、平成 29 年 3 月 14 日付
◎医学部生理学講座教授（生体制御学部門）
砂川正隆（就任）
平成 29 年 4 月 1 日付
◎医学部衛生学公衆衛生学講座教授（衛生学部門）（員外）
山野優子（就任）
平成 29 年 1 月 10 日付
◎医学部皮膚科学講座教授（員外）（昭和大学病院勤務）
渡辺秀晃（就任）
◎医学部内科学講座教授（呼吸器アレルギー内科学部門）（員外）（昭和大学横浜市北部病院勤務）
笠原慶太（就任）
◎医学部内科学講座教授（血液内科学部門）（員外）（昭和大学横浜市北部病院勤務）
坂下暁子（就任）
◎医学部精神医学講座教授（員外）（昭和大学横浜市北部病院勤務）
稻本淳子（就任）
◎医学部皮膚科学講座教授（員外）（昭和大学江東豊洲病院勤務）
永田茂樹（就任）
以上、平成 28 年 12 月 13 日付

◎昭和大学名誉教授
小峰光博（授与）
平成29年4月1日付

《退任関係》

◎昭和大学理事
板橋家頭夫（退任）
(昭和大学病院長職は継続)

◎昭和大学病院附属東病院病院長
河村 満（退任）

◎昭和大学横浜市北部病院病院長
世良田和幸（退任）

◎昭和大学江東豊洲病院病院長
新井一成（退任）

◎昭和大学豊洲クリニック院長
由良明彦（退任）

◎昭和大学医学部長
久光 正（定年退職）

◎医学部生理学講座教授（生体制御学部門）
久光 正（定年退職）（特任教授に就任）

◎医学部医学教育学講座教授
高木 康（定年退職）（特任教授に就任）

◎医学部内科学講座教授（循環器内科学部門）（昭和大学病院勤務）
小林洋一（定年退職）（特任教授に就任）

◎医学部形成外科学講座教授（形成外科学部門）（昭和大学病院勤務）
吉本信也（定年退職）

◎医学部内科学講座教授（腎臓内科学部門）（昭和大学横浜市北部病院勤務）
衣笠えり子（定年退職）

以上、平成29年3月31日付
《異動関係》

◎医学部形成外科学講座教授（昭和大学病院勤務）
大久保文雄（異動）（講座編成変更に伴う）
平成28年10月1日付

◎医学部総合診療医学講座教授
(昭和大学江東豊洲病院勤務)

弘重壽一（異動）（講座編成変更に伴う）

◎医学部外科学講座教授（消化器一般外科学部門）（総合情報管理センターに異動）

中村明央（異動）
以上、平成29年4月1日付

リウマチ内科学（順天堂越谷病院）/医学部膠原病内科学講座）

八田耕太郎（医学研究科精神・行動科学（練馬病院）/医学部精神医学講座）

以上、平成29年3月1日付

切替照雄（医学研究科微生物学/医学部微生物学講座）

鹿間直人（医学研究科放射線治療学/医学部放射線治療学講座）

林 礼人（医学研究科形成・再建外科学教室（浦安病院）/医学部形成外科学講座）

杉田 学（医学研究科救急・災害医学（練馬病院）/医学部救急・災害医学研究室）

以上、平成29年4月1日付

◎特任教授選任

入村達郎（大学院医学研究科難病の診断と治療研究センター）

平成28年10月1日付

田部陽子（大学院医学研究科共同研究講座（次世代血液検査医学講座）/臨床病態検査医学/医学部臨床検査医学講座）

平成28年12月1日付

大草敏史（医学研究科寄付講座（腸内フローラ研究講座））

平成29年4月1日付

◎教授定年退職

岡田隆夫（医学研究科器官・細胞生理学）

渡邊純夫（医学研究科消化器内科学）

竹田 省（医学研究科産婦人科学）

福永正氣（医学研究科肝・胆・脾外科学（浦安病院））

饗庭三代治（医学研究科総合診療科学（高齢者医療センター））

光畠裕正（医学研究科疼痛制御学（高齢者医療センター））

以上、平成29年3月31日付

◎名誉教授選任

岡田隆夫

渡邊純夫

順天堂大学

《人事異動》

◎メディカルテクノロジー・シミュレーションセンター長（併任）

新井 一
平成28年11月1日付

◎学長特別補佐（再任）

木南英紀（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

◎医学部附属順天堂医院長（再任）
天野 篤（平成29年4月1日～平成31年3月31日）

◎医学部附属浦安病院長（再任）
吉田幸洋（平成29年4月1日～平成31年3月31日）

◎教授就任

長田太郎（医学研究科消化器内科学（浦安病院）/医学部内科学教室・消化器内科学講座）

平成28年10月1日付

田村直人（医学研究科膠原病・リウマチ内科学 / 医学部膠原病内科学講座）

藤原俊之（医学研究科リハビリテーション医学 / 医学部リハビリテーション医学研究室）

以上、平成29年1月1日付

辻村 晃（医学研究科泌尿器外科学（浦安病院）/医学部泌尿器外科学講座）

平成29年2月1日付

大日方薰（医学研究科小児思春期発達・病態学（浦安病院）/医学部小児科学講座）

山中健次郎（医学研究科膠原病・

以上、平成 29 年 4 月 1 日付

関西医科大学

《役員人事》

◎理事辞任

鮫島美子

平成 29 年 1 月 26 日付

◎理事就任

水野孝子（新任）

平成 29 年 4 月 1 日付

《副学長人事》

◎副学長就任

野村昌作（新任）

平成 28 年 10 月 1 日付

伊藤誠二（再任）

松田公志（再任）

野村昌作（再任）

以上、平成 29 年 4 月 1 日付

《教授人事》

◎教授就任

近藤誉之（神経内科学講座診療教授）

平成 28 年 10 月 1 日付

善甫宣哉（心臓血管外科学講座診療教授）

平成 28 年 12 月 16 日付

村尾浩平（麻酔科学講座診療教授）

平成 29 年 2 月 1 日付

齋藤貴徳（整形外科学講座）

高木雅彦（内科学第二講座診療教授）

萩平 哲（麻酔科学講座診療教授）

中森 靖（救急医学講座診療教授）

西屋克己（学長特命教授：医学教育センター）

鈴鹿有子（学長特命教授：国際交流センター）

小早川令子（学長特命教授：附属生命医学研究所神経機能部門（任期更新））

關 壽人（理事長特命教授：総合医療センター肝臓病センター）

飯田寛和（理事長特命教授：総合

医療センター人工関節センター）

川副浩平（理事長特命教授：総合医療センター心臓血管病センター（任期更新））

吉岡和彦（理事長特命教授：総合医療センター外科（任期更新））

片田範子（看護学部設置準備室教授）

杉本哲夫（看護学部設置準備室教授）

以上、平成 29 年 4 月 1 日付

◎教授退任

杉本哲夫（解剖学第二講座）

螺良愛郎（病理学第二講座）

飯田寛和（整形外科学講座）

影島賢巳（物理学教室）

木下 洋（学長特命教授：医学教育センター）

關 壽人（内科学第三講座診療教授）

濱田吉則（外科学講座診療教授）

以上、平成 29 年 3 月 31 日付

《役職者人事》

◎事務局長就任

高井 俊（新任）

◎附属図書館館長

高橋寛二（新任）

◎実験動物飼育共同施設長

平野伸二（新任）

◎入試センター長

中川 淳（新任）

◎病態分子イメージングセンター長

伊藤誠二（再任）

◎医学教育センター長

西屋克己（新任）

◎国際交流センター長

鈴鹿有子（新任）

◎アイソトープ実験施設長

谷川 昇（新任）

◎臨床研究支援センター長

岡崎和一（再任）

◎附属病院病院長

澤田 敏（再任）

◎附属看護専門学校学校長

楠本健司（新任）

以上、平成 29 年 4 月 1 日付

大阪医科大学

《法人》

◎理事

天野富美夫（退任）

平成 29 年 3 月 14 日付

岩井 一（重任）

平成 29 年 4 月 1 日付

《人事》

◎教授就任

藤枝美穂（語学（英語・独語））

平成 28 年 10 月 1 日付

今川彰久（内科学 I）

平成 28 年 12 月 1 日付

荒若繁樹（内科学 IV）

本庄かおり（心理学・行動科学）

以上、平成 29 年 4 月 1 日付

◎専門教授就任

菅澤 淳（眼科学）

平成 28 年 11 月 1 日付

寺井陽彦（口腔外科学）

平成 28 年 12 月 1 日付

梶本宜永（医学教育センター）

平成 29 年 1 月 1 日付

◎特別職務担当教員（教授）就任

上田英一郎（医療管理室）

平成 28 年 11 月 1 日付

◎特別任命教員（教授）就任

田中慶太朗（一般・消化器外科学）

平成 28 年 5 月 1 日付

富永和作（先端医療開発学寄附講座）

平成 29 年 4 月 1 日付

久留米大学

◎学校法人久留米大学理事長

神代正道（退任）

平成 28 年 12 月 31 日付

永田見生（就任）

平成 29 年 1 月 1 日付

◎顧問就任
神代正道
平成29年4月1日付

◎副学長就任
内村直尚
平成28年10月1日付

《役職者の退任》

◎医学部附属病院長
志波直人

◎分子生命科学研究所長
石原直忠

◎皮膚細胞生物学研究所長
橋本 隆
以上、平成29年3月31日付

《役職者の就任》

◎大学院医学研究科科長
矢野博久（再任）

◎医学部長
内村直尚（再任）

◎医学部附属病院長
八木 実

◎医学部附属医療センター病院長
廣松雄治（再任）

◎医学部看護学科長
三橋睦子（再任）

◎医学部附属臨床検査専門学校長
西 昭徳（再任）

◎分子生命科学研究所長
児島将康

◎循環器病研究所長
福本義弘（再任）

◎がんワクチンセンター長
伊東恭悟（再任）

◎皮膚細胞生物学研究所長
名嘉眞武國

◎臨床研究支援センター長
上野高史
以上、平成29年4月1日付

《教授の退任》

◎医学部医学科産婦人科学講座
堀 大蔵（定年）

◎医学部医学科内科学講座（内分泌
泌尿代謝内科部門）
山田研太郎（定年）

◎皮膚細胞生物学研究所

橋本 隆（定年）
以上、平成29年3月31日付

《教授の就任》

◎医学部医学科内科学講座（消化器・内科部門）
黒松亮子

◎医学部医学科脳神経外科学講座
廣畠 優
以上、平成29年1月1日付

◎医学部医学科内科学講座（呼吸器・神経・膠原病内科部門）
川山智隆
平成29年4月1日付

《特命教授の就任》

◎学長直属
伊東恭悟（再任）
野口正典（再任）
由谷 茂（再任）
以上、平成29年4月1日付

《特定教授の就任》

◎医学部医学科糖尿病性血管合併症病態・治療学講座（寄附講座）
山岸昌一（再任）
平成29年4月1日付

療開発センター先端医療領域開発部門）
平成28年12月31日付

廣畠俊成（膠原病・感染内科学）
平成29年3月31日付

◎教授定年退職
河原克雅（生理学）（河原单位）
益田典幸（呼吸器内科学）
赤星 透（総合診療医学）
以上、平成29年3月31日付

杏林大学

《人事》

◎教授（就任）
岡田アナベルあやめ（眼科学）
長瀬美樹（解剖学）
横山健一（放射線医学）

◎臨床教授（就任）
樽井武彦（救急医学）
徳嶺譲芳（麻酔科学）
長島文夫（内科学（腫瘍科））

◎教授（退任）
波利井清紀（形成外科学）
有村義宏（内科学I（リウマチ・膠原病内科））
似鳥俊明（放射線医学）

◎名誉教授称号授与
松田宗男（生物学）

◎病院関係（就任）
滝澤 始（副院長）
萬 知子（周術期管理センター長）
吉野秀朗（周術期管理センター副センター長）
萬 知子（高気圧酸素治療室長）
萬 知子（臨床工学室長）
横山健一（放射線部長）
井本 滋（高難度新規医療技術評価室長）
篠原高雄（未承認新規医薬品等評価室長）
齋藤康一郎（患者サービス副室長）
以上、平成29年4月1日付

北里大学

《人事異動》

◎教授採用
鈴木隆浩（血液内科学）
平成28年10月1日付

蓮沼智子（医学部附属臨床研究センタープロジェクト実施部門（北里研究所病院））
平成29年1月1日付

◎教授昇任・所属変更
鳥井晋三（医学部附属医学教育研究開発センター医療安全学研究部門）

◎教授移籍
庄司信行（眼科学）
以上、平成28年10月1日付

◎教授退職
鈴木 滋（医学部附属新世纪医

川崎医科大学

《就任》

山内 明（生化学教授）
 戸田雄一郎（麻酔・集中治療医学 2 教授）
 加藤勝也（放射線医学（画像診断 2）教授）
 以上、平成 28 年 10 月 1 日付
 原 浩貴（耳鼻咽喉科学教授）
 平成 29 年 4 月 1 日付

《退任》

濱崎周次（病理学 2 教授）
 平成 29 年 3 月 28 日付
 岸 文雄（分子生物学教授）
 原田 保（耳鼻咽喉科学教授）
 以上、平成 29 年 3 月 31 日付

聖マリアンナ医科大学

《法人役員就任》

◎理事長
 明石勝也（再任）
 ◎副理事長
 三宅良彦（新任）
 ◎常勤理事
 尾崎承一（再任）（学長・新任）
 北川博昭（新任）
 田口芳雄（新任）
 久保田恭司（新任）
 本田伸夫（再任）
 小宮 清（再任）
 山本真士（新任）
 ◎理事
 古谷正博（再任）
 ◎監事
 大石忠生（再任）
 清水 至（再任）
 ◎特別顧問
 長谷川和夫（再任）
 ◎顧問
 田所 衛（再任）
 青木治人（新任）
 以上、平成 29 年 4 月 1 日付

《教員人事》

◎教授定年退職

武者春樹（スポーツ医学）
 尾崎承一（内科学（リウマチ・膠原病・アレルギー内科））
 以上、平成 29 年 3 月 31 日付

◎教授任命

山口慶一郎（大学院特任教授：陽子線治療・先端腫瘍画像研究部門（株式会社新日本科学）寄附研究部門）
 平成 29 年 3 月 1 日付
 池森敦子（教授：解剖学（機能組織））
 藤谷博人（教授：スポーツ医学）
 川畑仁人（教授：内科学（リウマチ・膠原病・アレルギー内科））
 井上永介（教授：医学教育文化部門（医学情報学））

武永美津子（大学院特任教授：先端創薬科学（株）LTT バイオファーマ寄附）研究部門）
 田嶋（ティナ）宏子（特任教授：医学教育文化部門（医学教育研究））

小泉宏隆（病院教授（東横病院）：病理学（分子病理））
 古畠智久（病院教授（東横病院）：外科学（消化器・一般外科））
 以上、平成 29 年 4 月 1 日付

帝京大学

◎名誉教授

桜井正樹
 渡辺晋一
 古井 滋
 関根英明
 福家伸夫

◎医学総合図書館長

内田俊也（医学部内科学講座）

◎主任教授

宇於崎宏（医学部病理学講座）（昇任）
 多田弥生（医学部皮膚科学講座）（昇任）

大場 洋（医学部放射線科学講座）（昇任）

◎教授

中川 徹（医学部泌尿器科学講座）（採用）
 飯塚眞由（医学部生化学講座）（昇任）
 清水宏明（ちば総合医療センター外科学）（採用）
 山下雅知（ちば総合医療センター ER）（昇任）
 森脇龍太郎（ちば総合医療センター救命救急センター）（採用）
 山崎一人（ちば総合医療センター病院病理部）（昇任）
 村田泰章（ちば総合医療センター整形外科学）（採用）
 以上、平成 29 年 4 月 1 日付

藤田保健衛生大学

《役職者人事》

◎大学長

星長清隆（再任）

◎統括副学長

才藤栄一（再任）

◎副学長

金田嘉清（再任）

杉岡 篤（再任）

岩田伸生（再任）

内藤健晴（再任）

以上、平成 29 年 4 月 1 日付

◎藤田保健衛生大学病院副院長

今泉和良（再任）

白木良一（再任）

尾崎行男（再任）

廣瀬雄一（再任）

高木 靖（再任）

眞野恵子（再任）

◎藤田保健衛生大学総合救命救急センター長

岩田充永

◎藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院副院長

堀口高彦（再任）
 堀口明彦（再任）
 寺田信樹（再任）
 ◎藤田保健衛生大学七栗記念病院
 副院長
 東口高志（再任）
 以上、平成29年2月1日付
 《教授の就任》
 杉浦立尚（未来医療戦略研究講座（共同研究講座））
 石原慎（地域医療学（寄附講座））
 以上、平成28年11月1日付
 矢上晶子（総合アレルギー科）
 平成29年1月1日付
 森直治（外科・緩和医療学）
 平成29年2月1日付
 土井洋平（微生物学）
 梶村益久（内分泌・代謝内科学）
 柴田清住（産婦人科学）
 須田隆（呼吸器外科学）
 佐藤美信（一般外科学）
 西澤春紀（産婦人科学）
 《教授の退職》
 堤寛（病理学Ⅰ）
 辻孝雄（微生物学）
 谷口孝喜（ウイルス・寄生虫学）
 森直治（外科・緩和医療学）
 多田伸（産婦人科学）
 水谷英樹（口腔外科）
 松井俊和（臨床医学総論）
 《名誉教授称号授与》
 松井俊和
 谷口孝喜
 黒澤良和
 以上、平成29年4月1日付

平成29年3月31日付
 《教授の人事》
 ◎主任教授就任
 木島貴志（内科学（呼吸器内科））
 山門亨一郎（放射線医学）
 以上、平成29年4月1日付
 ◎主任教授退任
 中野孝司（内科学（呼吸器・RCU科））
 廣田省三（放射線医学）
 宮本正喜（医療情報学）
 池田啓子（生物学）
 以上、平成29年3月31日付
 ◎教授就任
 山崎尚（生物学）
 平成29年1月1日付
 藤原範子（生化学）
 古江秀昌（生理学（神経生理部門））
 以上、平成29年3月1日付
 ◎名誉教授の称号授与
 中野孝司（内科学（呼吸器・RCU科））
 廣田省三（放射線医学）
 以上、平成29年4月1日付

後藤峰弘（退職）（中央臨床検査部）
 平成28年9月2日付
 河村敏紀（退職）（放射線医学講座）
 平成28年12月31日付
 伊藤誠（退職）（感染・免疫学講座）
 宮地正彦（退職）（外科学講座（消化器外科））
 吉川和宏（退職）（総合医学研究機構高度研究機器部門）
 以上、平成29年3月31日付

自治医科大学

《役員の異動》
 ◎理事長
 香山充弘（退任）
 平成29年1月9日付
 大石利雄（就任）
 平成29年1月10日付

◎理事
 香山充弘（退任）
 平成29年1月9日付
 大石利雄（就任）
 平成29年1月10日付

《大学の人事》
 ◎卒後指導部長
 本間善之（退任）
 平成29年3月31日付
 高本和彦（就任）
 平成29年4月1日付
 ◎附属病院副院長
 森田辰男（就任）
 平成29年4月1日付
 ◎さいたま医療センター副センター長
 安達秀雄（退任）
 平成29年3月31日付
 讀井将満（就任）
 平成29年4月1日付

愛知医科大学

《人事異動》
 ◎教授
 黒田寛人（採用）（先端レーザー医学寄附講座）
 平成28年10月1日付
 大竹千生（退職）（内科学講座（内分泌・代謝内科））
 今井裕一（退職）（内科学講座（腎臓リウマチ・膠原病内科））
 松浦克彦（退職）（臨床研究支援センター）
 以上、平成29年3月31日付
 ◎教授（特任）
 平井宗一（採用）（解剖学講座）
 平成28年9月1日付
 津田雅庸（昇任）（救命救急科）
 平成28年10月1日付

兵庫医科大学

《役職者の人事》
 ◎役職者の就任
 成瀬均（医学教育センター長）
 平成29年4月1日付
 ◎役職者の退任
 鈴木敬一郎（医学教育センター長）

金沢医科大学

《法人役員》

◎理事長

高島茂樹（新任）

（任期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日）

竹越 裕（退任）

平成 29 年 3 月 31 日付

◎副理事長

中農理博（再任）

（任期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日）

◎常務理事

木村晴夫（再任）

大野木辰也（新任）

（以上、任期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日）

◎理事

神田享勉（学長）

北山道彦（病院長）

斎藤人志（金沢医科大学氷見市民病院長）

（以上、学長、病院長のそれぞれの任期による）

伊藤 順（再任）

岩淵邦芳（新任）

大島譲二（再任）

（以上、任期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日）

勝田省吾

（任期：平成 28 年 9 月 1 日～平成 31 年 8 月 31 日）

川上重彦（再任）

坂本 滋（再任）

梅 博久（再任）

飛田秀一（再任）

松本忠美（再任）

宮村栄一（再任）

三輪高喜（新任）

山下和夫（新任）

吉田勝明（再任）

米沢 寛（再任）

（以上、任期：平成 29 年 4 月 1

愛知医科大学バスロータリー開設

愛知医科大学では、平成 26 年度から公共交通機関を導入し、日々 2,500 名を超える来学・来院者の交通アクセスの充実に努めてきました。公共交通機関導入時からの将来構想として、本学を起点とする東西南北への交通網のハブ化を目指しており、平成 29 年 4 月に本学に運行されるバス専用のロータリーを開設しました。

新たに設置されたバスロータリーは、屋根付き通路を設置することにより、雨に濡れずに病院（中央棟）にアクセスでき、乗降スペースには、風防スクリーンの設置、車いすスペースの確保、英語表記を含めた各種案内看板の設置など、利用者の方々が快適に利用して頂けるように設計されています。

更に、中央棟の 1 階玄関、2 階投薬会計窓口、6 月にオープン予定のアメニティ棟 2 階フードコートには、バスの運行状況をお知らせするバスロケーションシステムが設置されています。



バスロータリー

日～平成 32 年 3 月 31 日）

（退任）

平成 29 年 3 月 31 日付

◎副院長

川原範夫（整形外科学教授）（新任）

坂本 滋（循環器外科学教授）

（新任）

伊藤 透（消化器内視鏡学教授）（新任）

梅 博久（呼吸器内科学教授）（新任）

辻 裕之（頭頸部外科学教授）（新任）

（任期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日）

犀川 太（小児科学教授）

（新任）（任期：平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

（再任）（任期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日）

才田悦子（看護部部長）（再任）

山下和夫（病院事務部事務長）

◎監事

小平俊行（新任）

松本浩平（再任）

（以上、任期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日）

大田 修（退任）

平成 29 年 3 月 31 日付

◎相談役

竹越 裕（新任）

（任期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日）

《役職教員》

◎病院長

北山道彦（心血管カテーテル治療学教授）（新任）

（任期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日）

松本忠美（整形外科学嘱託教授）

(再任)
 (以上、任期：平成29年4月1日～平成32年3月31日)
 三輪高喜(耳鼻咽喉科学教授)
 (退任)

平成28年12月31日付

小坂健夫(一般・消化器外科学教授)(退任)

森本茂人(高齢医学教授)(退任)

四方裕夫(心臓血管外科学臨床教授)(退任)

吉家大祐(糖尿病・内分泌内科学教授)(退任)

以上、平成29年3月31日付

◎病院長補佐

小坂健夫(一般・消化器外科学教授)(新任)

石田豊司(事務局長)(新任)

(以上、任期：平成29年4月1日～平成30年3月31日)

堀 有行(医学教育学教授)(退任)

堤 幹宏(肝胆膵内科学教授)(退任)

以上、平成29年3月31日付

◎学長補佐

堤 幹宏(肝胆膵内科学嘱託教授)(再任)

(任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日)

◎総合医学研究所長

西尾眞友(薬理学嘱託教授)(再任)

(任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日)

《教授》

◎講座主任

小内伸幸(免疫学)(新任)

平成28年12月15日付

島田賢一(形成外科学)(就任)

平成29年4月1日付

秋田利明(心臓血管外科学)(退職)

平成28年9月15日付

川上重彦(形成外科学)(定年退職)

堤 幹宏(肝胆膵内科学)(定年退職)

利波久雄(放射線医学)(定年退職)
 野島孝之(臨床病理学)(定年退職)
 以上、平成29年3月31日付

◎教授

東田俊彦(教育学習支援センター)(新任)

平成29年4月1日付

◎特任教授

兼氏 歩(整形外科学)(任命換)

平成28年10月1日付

鈴鹿有子(耳鼻咽喉科学)(退職)

平成29年3月31日付

◎臨床教授

浦島左千夫(消化器内視鏡学)(就任)

中橋 毅(高齢医学)(配置換)

以上、平成29年4月1日付

《金沢医科大学氷見市民病院》

◎最高経営責任者(CFO)

川上重彦(学校法人金沢医科大学理事)(新任)

平成29年4月1日付

◎病院長

斎藤人志(一般・消化器外科臨床教授)(再任)

(任期：平成29年4月1日～平成32年3月31日)

◎副院長

上端雅則(氷見市民病院事務部部長)(再任)

高木雅美(看護部部長)(新任)

高田 久(脳神経外科臨床教授)(新任)

福田昭宏(循環器内科臨床教授)(再任)

(以上、任期：平成29年4月1日～平成32年3月31日)

池渕公博(整形外科)(退任)

小島ひとみ(看護部部長)(退任)

以上、平成29年3月31日付

《名誉教授の称号授与》

川上重彦

利波久雄

堤 幹宏

野島孝之

長谷川雅美

以上、平成29年4月1日付

獨協医科大学

《学校法人獨協学園の人事》

◎理事の就任(新任)

平田幸一(大学病院長)

任期：平成29年4月1日～平成31年8月1日

若松昭豊(大学事務局長)

任期：平成29年4月1日～平成31年8月1日

《役職者の就任》

◎副学長

吉田謙一郎(再任)

任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)

◎大学病院長

平田幸一(新任)

任期：平成29年4月1日～平成32年3月31日(3年)

◎教務部長

増田道明(再任)

任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)

◎学生部長

加藤広行(新任)

任期：平成29年4月1日～平成32年3月31日(3年)

◎事務局長

若松昭豊(新任)

平成29年4月1日付

《教授の就任》

宮下 進(大学病院総合周産期母子医療センター)

平成28年12月1日付

井川 健(皮膚科学)

吉原重美(小児科学)

鈴木謙介(越谷病院脳神経外科)

杉本公平(越谷病院リプロダクションセンター)

若尾 宏（支援センター・国際
協力支援センター）
以上、平成 29 年 4 月 1 日付

近畿大学

《新任教授》

◎主任教授
松村謙臣（採用）（医学部産科
婦人科学教室）

◎教授
平山暁秀（昇格）（医学部奈良
病院泌尿器科）
以上、平成 29 年 4 月 1 日付
三井良之（昇格）（医学部総合
医学教育研修センター）
平成 28 年 10 月 1 日付

《退任教授》
◎主任教授
万代昌紀（退任）（医学部産科
婦人科学教室）
平成 29 年 2 月 28 日付

◎教授
長谷川廣文（退任）（医学部堺
病院腎臓内科）
國方聖司（退任）（医学部奈良
病院泌尿器科）
以上、平成 29 年 3 月 31 日付

部付属病院長
飯田政弘
◎伊勢原校舎・付属病院本部副本
部長（経営企画・事務担当）（新
任）、伊勢原経営企画室長（新
任）、伊勢原事務部長（新任）、
付属病院事務部長
梅澤博之

◎医学部副学部長
瀧澤俊也（新任）
◎医学部副学部長、大学院医学研
究科長
小林広幸

◎医学部副学部長（新任）、伊勢
原教育計画部長
川田浩志

◎医学部付属病院副院長
鈴木利保
渡辺雅彦

浅野浩一郎
大上研二
◎医学部付属東京病院病院長特別
補佐、医学部付属大磯病院病院
長特別補佐（新任）
猪口貞樹

◎医学部付属東京病院長
赤石 誠
◎医学部付属東京病院副院長
千野 修

◎医学部付属大磯病院長
島田英雄
◎医学部付属大磯病院副院長
宮北英司

小林一郎
豊倉 穣
◎医学部付属八王子病院長
渡辺勲史

◎医学部付属八王子病院副院長
山田俊介
小林義典
向井正哉（新任）

《教授就任》
玉木哲朗（基礎医学系（生体構
造機能学））
穂積勝人（基礎医学系（生体防
御学））

浦野哲哉（基礎医学系（医学教
育学））
加川建人（内科学系（消化器内
科学））
鈴木孝良（内科学系（消化器内
科学））
中村道郎（外科学系（移植外科学））
宮嶋 哲（外科学系（泌尿器科学））
新井 信（専門診療学系（漢方
医学））

《臨床教授就任》

◎医学部付属東京病院
長田恵弘（外科学系（泌尿器科
学））
以上、平成 29 年 4 月 1 日付

東海大学

《役職者就任》

◎理事
幕内博康
◎副学長（医療健康担当）、伊勢
原校舎・付属病院本部本部長
今井 裕
◎伊勢原校舎・付属病院本部副本
部長（統括・教育研究担当）（新
任）、医学部長
坂部 貢

◎伊勢原校舎・付属病院本部副本
部長（病院担当）（新任）、医学

部付属病院長
飯田政弘
◎伊勢原校舎・付属病院本部副本
部長（経営企画・事務担当）（新
任）、伊勢原経営企画室長（新
任）、伊勢原事務部長（新任）、
付属病院事務部長
梅澤博之

◎医学部副学部長
瀧澤俊也（新任）
◎医学部副学部長、大学院医学研
究科長
小林広幸

◎医学部付属東京病院病院長特別
補佐、医学部付属大磯病院病院
長特別補佐（新任）
猪口貞樹

◎医学部付属東京病院長
赤石 誠
◎医学部付属東京病院副院長
千野 修

◎医学部付属大磯病院長
島田英雄
◎医学部付属大磯病院副院長
宮北英司

小林一郎
豊倉 穣
◎医学部付属八王子病院長
渡辺勲史

◎医学部付属八王子病院副院長
山田俊介
小林義典
向井正哉（新任）
《教授就任》
玉木哲朗（基礎医学系（生体構
造機能学））
穂積勝人（基礎医学系（生体防
御学））

協会及び関係団体の動き

I. 医師養成制度検討委員会（委員長：小川 彰岩手医科大学理事長） 策定の医学教育グランドデザインについて

本協会は、平成28年6月、卒前医学教育・臨床研修制度・専門医制度のあり方等について、一貫性のある医師養成課程を具体化するため、新たに医師養成制度検討委員会（委員長：小川 彰岩手医科大学理事長、委員：炭山嘉伸東邦大学理事長、栗原敏東京慈恵会医科大学理事長、山下敏夫関西医科学理事長、吉村博邦日本専門医機構理事長・協会参

与）を設置した。これまで、3回に亘り、卒前・卒後のシームレスな教育の確立並びに医師国家試験の適正化、医師不足の原因たる地域偏在・診療科偏在の具体的解決策、医師臨床研修制度の廃止を含めたゼロベースでの見直し等に関する協議を行い、今般、「医学教育グランドデザイン（案）」を作成した。（今号座談会P5～P26参照）

【協会、関係団体の動き】

■平成28年5月27日（金）

全国医学部長病院長会議は、「医師養成の質保証と改革実現のためのグランドデザイン－全国医学部長病院長会議の立場から－」を公表した。

【政府、関係省庁等の主な動き】

■平成28年3月30日（水）

文部科学省「第1回モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する連絡調整委員会」「第1回専門研究委員会」<医学・歯学>が開催された。
議題

1. 委員長の選任について
2. 開催趣旨等について
3. モデル・コア・カリキュラムの策定及び改訂の経緯について
4. モデル・コア・カリキュラム改訂の方向性について
5. その他

■平成28年7月6日（水）

文部科学省「第3回専門研究委員会」<医学>が開催された。

■平成28年7月27日（水）

文部科学省「医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」が開催された。

■平成28年8月25日（木）

厚生労働省「平成28年度第1回医道審議会医師分科会医師臨床研修部会」が開催された。
議題

1. 臨床研修病院の指定に係る審査 等

■平成28年8月30日（火）

全国医学部長病院長会議は、厚生労働省に対して、「医師国家試験に関する要望書」を提出した。

■平成 28 年 11 月 21 日（月）

本協会は、第 1 回医師養成制度検討委員会を開催した。

議題

1. 医師養成制度について

- ・卒前・卒後のシームレスな教育の確立並びに医師国家試験の適正化について
- ・CBT（共用試験）について

2. 医師臨床研修制度について

医師臨床研修制度の抜本的な改革だけでなく、廃止を含めた見直しに関する提言について

3. 新専門医制度について

適切な新専門医制度の設計に際しての具体的な問題点について

4. 医師不足の原因たる地域偏在・診療科偏在の具体的解決策について

5. 成田市における医学部新設の動向について

6. 今後の本委員会の進め方について

7. その他

■平成 28 年 10 月 20 日（木）

医師臨床研修マッチング協議会は、平成 28 年度研修医のマッチング結果を公表した。

■平成 28 年 11 月 16 日（水）

文部科学省「第 2 回モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する連絡調整委員会」「第 4 回専門研究委員会」＜医学・歯学＞が開催された。

議題

1. 医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂案について
2. 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂案について
3. その他

■平成 28 年 12 月 8 日（木）

本協会は、第 2 回医師養成制度検討委員会を開催した。

議題

1. 学部教育・卒後教育・臨床研修・専門医制度のシームレスな教育の確立について

2. 文部科学省「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会（第 2 回）及び専門研究委員会（第 4 回）合同会議」（平成 28 年 11 月 16 日開催）について

3. 文部科学省「国公私立大学病院臨床研修関係補助金」及び厚生労働省「私立大学病院臨床研修補助金」について

4. 土曜日における授業等の実施状況について

5. 今後の本委員会の進め方について

6. その他

■平成 28 年 11 月 24 日（木）

厚生労働省「平成 28 年度第 2 回医道審議会医師分科会医師臨床研修部会」が開催された。

議題

1. 到達目標・評価WGからの経過報告
2. 研修病院群の構成等について
3. 平成 28 年 3 月臨床研修修了者アンケート結果について
4. その他

■平成 28 年 12 月 14 日（水）

文部科学省はモデル・コア・カリキュラムに関するパブリックコメント及び大学・学会への意見照会を行った。（期限：平成 29 年 1 月 12 日まで）

■平成 28 年 12 月 16 日（金）

第 2 回日本専門医機構社員総会は、「専門医制度整備指針」の改定案に関する協議を行い、改定案が承認された。

■平成 29 年 1 月 16 日（月）

全国医学部長病院長会議は、医学教育委員会を開催した。

■平成29年1月19日（木）

本協会は、第3回医師養成制度検討委員会を開催した。

議題

1. 本委員会「医学教育グランドデザイン」について
2. 卒前・卒後の医師養成過程を巡る近年の動きについて
3. 全国医学部長病院長会議医学教育委員会（平成29年1月16日開催）について
4. 加盟大学附属病院における臨床研修費補助金一覧について
5. その他

■平成29年1月19日（木）

本協会第301回理事会（拡大）は、「医学教育グランドデザイン」の策定並びに関係各方面との協議について承認した。

■平成29年1月30日（月）

文部科学省より、現在行われている「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の改訂に関して、同改訂版の考え方並びに概要に、本協会医師養成制度検討委員会の名称を明記し、同委員会の存在をより周知し、文部科学省としてサポートしていきたいとの相談があった。

これを受け、寺野 彰会長と小川 彰医師養成制度検討委員会委員長は「医学教育モデル・コア・カリキュラム平成28年度改訂版」（最終案）を了承した。

■平成29年2月17日（金）

第10回日本専門医機構理事会は、専門医制度新整備指針御運用細則並びに補足説明について概ね承認した。

■平成29年3月17日（金）

第11回日本専門医機構理事会は、専門医制度新整備指針運用細則並びに補足説明を承認した。

■平成29年3月21日（火）

日本専門医機構は、専門医制度新整備指針運用細則並びに補足説明に関する意見募集を開始した。（期限：平成29年4月4日まで）

■平成29年4月14日（金）

第12回日本専門医機構理事会が開催された。

■平成29年2月15日（水）

厚生労働省「平成28年度第3回医道審議会医師分科会医師臨床研修部会」が開催された。議題

<第1部>公開

1. 平成30年度都道府県別募集定員の上限について
2. 医師臨床研修制度の到達目標・評価の在り方に関するワーキンググループからの経過報告 等

<第2部>非公開

1. 臨床研修病院の指定に係る審査

■平成29年2月22日（水）

文部科学省「第6回専門研究委員会」<医学>・厚生労働省「第13回医師臨床研修制度の到達目標・評価の在り方に関するワーキンググループ」合同会議が開催された。

■平成29年3月23日（木）

厚生労働省「平成28年度第4回医道審議会医師分科会医師臨床研修部会」が開催された。議題

1. 医師臨床研修制度の新たな到達目標について
2. その他

■平成29年3月24日（金）

文部科学省「第3回モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する連絡調整委員会」が開催された。医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案が承認された。

■平成29年3月31日（金）

文部科学省は「医学教育・モデル・コア・カリキュラム平成28年度改訂版」を公表した。

■平成29年4月24日（金）

厚生労働省「第1回今後の医師養成の在り方と地域医療に関する検討会」が開催された。

■平成29年5月25日（木）

厚生労働省「第2回今後の医師養成の在り方と地域医療に関する検討会」が開催された。

II. 経営検討委員会（委員長：明石勝也聖マリアンナ医科大学理事長）の設置について

本協会は、会長直結であった4つの委員会（企画委員会、学生定員に関する委員会、財務担当理事者会議、倫理委員会）を改組し、会長直結の委員会を企画委員会、倫理委員会とした。その企画委員会のもとに、国の厳しい予算のもとでの経常費補助金の確保、診療報酬のあり方に対する要望、消費税損税問題の解消等について積極的に協議・検討を行うと共に、加盟各大学並びに附属病院における収支状況

の実態を把握し、経営基盤の強化を図ることを目的とした「経営検討委員会」（委員長：明石勝也聖マリアンナ医科理事長、委員：小山信彌東邦大学医学部特任教授、川崎誠治川崎医科大学理事長、新井一順天堂大学学長、丸木清之埼玉医科大学理事長、澤田 敏関西医科大学常務理事・病院長）を新設して、検討を開始した。

【協会、関係団体の動き】

■平成 28 年 11 月 8 日（火）

本協会は、第1回経営検討委員会を開催した。

議題

1. 地域医療構想と大学病院の役割について
2. 控除対象外消費税（損税）の実態について
3. 平成 28 年度診療報酬改定に伴う影響等の検証・分析
4. 平成 27 年度加盟大学医学部・附属病院の収支の概要
5. 加盟大学附属病院の各種調査結果
 - ① DPC 対象病院の医療機関別係数（平成 28 年 10 月時点）
 - ② 病床稼働率③紹介率④平均在院日数⑤新来院患者数
6. 重症度、医療・看護必要度に関する調査（案）について
7. 平成 24 年度国民医療費の構造について
8. 今後の委員会の運営について

【政府、関係省庁等の主な動き】

■平成 28 年 9 月 1 日（木）

厚生労働省は、平成 29 年度税制改正要望を公表した。

医療に係る消費税の課税のあり方の検討については、平成 28 年度税制改正大綱に基づき、医療保険制度での手当への検討等とあわせて、特に高額設備投資に伴う負担が大きいとの指摘等も踏まえ、平成 29 年度税制改正に際し、総合的に検討し、結論を得るとした。

■平成 29 年 12 月 8 日（木）

明石勝也委員長（総務・経営部会担当理事）は、松野博一文部科学大臣並びに塙崎恭久厚生労働大臣（代理：椎葉茂樹大臣官房審議官）と面談し、「地域医療構想と大学病院の役割に関する要望書」を提出した。

■平成 28 年 12 月 22 日（木）

厚生労働省は、平成 29 年度厚生労働省関係税制を発表した。

医療に係る消費税の課税のあり方の検討、医療機関の設備投資に関する特例措置の創設について、消費税率が 10% に引き上げられるまでに、総合的に検討し、結論を得るとした。

■平成 29 年 4 月 13 日（木）

本協会は、第 2 回経営検討委員会を開催した。

議題

1. 平成 27 年度加盟大学医学部・附属病院の経営状況について
2. 平成 27 年度加盟大学決算に基づく経営分析結果の概要について（グラフ化）
3. 平成 28 年度医療機関別係数について
4. その他

■平成 29 年 3 月 28 日（火）

政府は、第 10 回働き方改革実現会議を開催した。

医師については、時間外労働規制の対象とするが、医師法に基づく応召義務等の特殊性を踏まえた対応が必要である。具体的には、改正法の施行期日の 5 年後を目途に規制を適用することとし、医療界の参加の下で検討の場を設け、質の高い新たな医療と医療現場の新たな働き方の実現を目指し、2 年後を目途に規制の具体的な在り方、労働時間の短縮策等について検討し、結論を得る、とした。

■平成 29 年 4 月 6 日（木）

厚生労働省「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会」は、報告書及び「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査結果」を公表した。

III. 地域医療構想と大学病院の役割について

団塊の世代が 75 歳以上となる平成 37 年（2025 年）は、本格的な高齢化時代の幕開けであり、いわゆる 2025 年問題として増大する医療・介護ニーズに対応するために限られた医療資源を効率的に活用する準備が求められている。医療提供体制の新たな構築については、平成 26 年 6 月に医療介護総合確保推進法が制定され、同法により改正された医療法の規定により各医療機関が担う病床機能を明らかにする病床機能報告制度が始まり、全国に「地域医療構想」の策定が義務付けられた。本協会は、上記「経営検

討委員会」において地域医療構想と大学病院の役割についての議論を行い、具体的な提案を行うこととした。また、平成 28 年 12 月 8 日には、文部科学大臣、厚生労働大臣に「地域医療構想と大学病院の役割に関する」要望書を提出した。国は、地域医療構想が展開されていくことにより、医師の地域偏在並びに専門医数等の医療従事者の確保に関しても医療機能の分化と連携による調整がなされるとの見解を示した。

IV. 厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会（座長：森田朗国立人口問題研究所長）・医師需給分科会（座長：片峰茂長崎大学学長）」「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会（座長：渋谷健司東京大学大学院医学系研究科教授）（以下、ビジョン検討会）」について

厚生労働省は、医師の需給推計の結果を提示し、平成 36 年頃には約 30 万人、遅くとも平成 45 年頃には約 32 万人で医師の需給が均衡するとの推計を公表した。それを基に、医師の地域・診療科偏在並びに地域医療構想等も踏まえ、更なる推計の見直しを行っていくこととした。

そのため、医療従事者の需給に関する検討会並びに医師需給分科会は、医師偏在対策に係る医療従事者の需給の見通し、医療従事者の確保対策、地域偏在対策等について、中間取りまとめ（平成 28 年 6 月 3 日）を行い、最終報告に向けて協議・検討を進めることとした。しかし、平成 28 年 10 月 6 日

開催の医師需給分科会において、新たにビジョン検討会設置に関する報告があり、今後予定されていた医師需給分科会の開催は延期となり、ビジョン検討会の取りまとめを踏まえて行うこととなった。

平成 29 年 4 月 6 日にビジョン検討会が公表した報告書と「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査結果」は回収率が低く、実態とかけ離れた

部分が多いとの指摘もあり、エビデンスを伴わない具体性を欠く内容であるとの意見があった。医師需給分科会の再開により、今後、具体的な偏在対策に関する集中的な審議が行われる予定であることから、本協会は医師需給分科会の動向を注視していくこととした。

V. 自由民主党「第 9 回大学病院を支援する議員連盟（会長：河村建夫衆議院議員）」について

平成 28 年 12 月 13 日（火）、第 9 回大学病院を支援する議員連盟が開催され、「大学病院に関する平成 29 年度予算の編成に向けて」の決議を行った。同決議では、大学病院が今後とも教育・研究・診療の機能を高度なレベルで果たしていくためには、優れた医療人養成強化のための教育環境の充実、国際水準の質の高い臨床研究を推進するための研究環境の充実と共に、健全な病院運営の実現と医師やメディカルスタッフにとり働きやすい職場環境づくりが不可欠であること、また、医療に係る消費税等の税制の在り方については、特に高額な設備投資等による仕入れ消費税額の負担が大きいとの指摘等も踏

まえ、総合的に検討し、結論を得るべきであるとした。また、決議の中で、医学部を設置する私立大学等の教育研究活動を支援するため、私立大学等経常費補助金の確保・充実を図ること、私立大学附属病院の施設整備への支援（利子助成）を確保すること、については、平成 28 年 12 月 22 日に政府が閣議決定した平成 29 年度予算案に盛り込まれた。特に、私立大学等経常費補助は、平成 28 年度と比較して減額されるとの情報が仄聞されていたが、同議員連盟の働きかけ等により平成 28 年度補助額と同額を維持した。

VI. 被災地の医療支援について

被災地への医師等派遣状況（国公立私立大学別）

平成 29 年 3 月 31 日現在

一般社団法人 日本私立医科大学協会

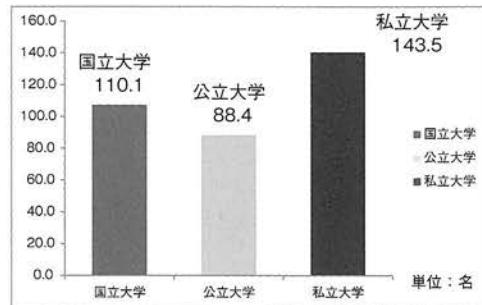
表 1：DMA T 含む医師等派遣状況

	大学数	病院数	チーム数	派遣人数	派遣延べ人数
国立大学	41 大学	44 病院	2,082 チーム	4,515 名	21,775 名
公立大学	7 大学	8 病院	261 チーム	619 名	3,314 名
私立大学	29 大学	68 病院	2,163 チーム	4,164 名	15,980 名
					41,069 名

※国公立大学の派遣延べ人数については、文部科学省医学教育課から提供された資料より、下記【派遣延べ人数のカウント方法】基づいて本協会において算出した。

表 2：1 大学当たりの医師等派遣人数（単位：名）

国立大学	110.1
公立大学	88.4
私立大学	143.5



【派遣人数のカウント方法】

医師 5 名、看護師 1 名、臨床心理士 1 名、事務 1 名のチーム構成で支援を行った場合、計 8 名を派遣人数としてカウントした。

【派遣延べ人数のカウント方法】

医師 5 名、看護師 1 名、臨床心理士 1 名、事務 1 名が 4 月 23 日から 26 日（4 日間）まで支援を行った場合、4 日間 × 計 8 名 = 32 名を派遣延べ人数としてカウントした。

※これまでの調査により一定の成果が得られたことから、平成 28 年度をもって本調査は終了されることとなった。

地球の健康とすべての人々の
健康で豊かな生活に貢献したい。
それが私たちスズケンの
壮大なテーマです。

 **SUZUKEN**
<http://www.suzuken.co.jp>



*Design
Your
Smile*
健康創造の
スズケングループ



alfresa

すべての人へ、いきいきとした生活を
創造しあ届けします。

アルフレッサ株式会社

〒101-8512 東京都千代田区神田美土代町7番地 住友不動産神田ビル13F・14F TEL.03-3292-3331(代)



広く、そして深く…。
アウトソーシングの専門企業として
レベルの高い、新しいサービスを追及しています。

中材業務・看護補助業務・手術部環境保全業務／
人材派遣・病院清掃／その他

株式会社 日経サービス

本 社 〒542-0081 大阪市中央区南船場1丁目17番10号 南船場NSビル
TEL : 06-6268-6788 (代表) FAX : 06-6268-0388

東京支店 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目3番13号 鈴木ビル
TEL : 03-5283-0061 FAX : 03-5283-0062

<http://www.nikkei-service.co.jp>

Amenity Scape Creation 快適空間の創造

みどりと暮らす

同此谷アメニスは、とどろくやさしい環境を求めて快適空間を創造し
ゆとりある社会の実現に向けて努めます。



株式会社 日比谷アメニス

東京都港区三田4-7-27 〒108-0073
TEL.03-3453-2401 FAX.03-3453-2426
URL <http://www.amenis.co.jp>

東関東支店：千葉県千葉市稲毛区轟町 5-7-32 Tel : 043-254-1122
仙台支店：宮城県仙台市青葉区二日町 13-18-605 Tel : 022-217-0252
名古屋支店：愛知県名古屋市中区錦 2-10-13 SC 錦 ANNEX6F Tel : 052-229-0137
大阪支店：大阪府大阪市西区江戸堀 1-8-14 Tel : 06-6441-6041
九州支店：福岡県福岡市博多区住吉 1-2-25 Tel : 092-282-2881

全ては健康を願う人々のために



わたしたちは社会・顧客と共生し、
独創的なサービスの提供を通じて
新しい価値を共創し、世界の人々の
医療と健康に貢献します。



共創未来グループ
東邦薬品株式会社

〒155-8655
東京都世田谷区代沢 5-2-1
TEL.03-3419-7811
<http://www.tohoyk.co.jp/>

日本私立医科大学協会加盟大学平成 29 年度合同入試説明会・相談会の実施について

「日本私立医科大学協会加盟大学合同入試説明会・相談会」では、ローテーション方式による各大学の説明並びにブースを設けての個別相談形式により、各大学の入試担当者から直接、受験生や保護者の方々に私立医科大学の特色や入試制度などをお伝えしております。

今年度は下記のとおり、4 回開催します。

詳細は日本私立医科大学協会ホームページ [\[http://www.idaikyo.or.jp/\]](http://www.idaikyo.or.jp/) にて公表いたします。

《開催スケジュール》

- | | |
|----------|----------------------|
| ◇ 帝京大学 | 平成 29 年 7 月 22 日 (土) |
| ◇ 東海大学 | 平成 29 年 8 月 5 日 (土) |
| ◇ 産業医科大学 | 平成 29 年 8 月 19 日 (土) |
| ◇ 大阪医科大学 | 平成 29 年 9 月 2 日 (土) |



広報誌 医学振興

第 84 号

平成 29 年 5 月 31 日発行

発行人 寺野彰
編集 一般社団法人 日本私立医科大学協会
広報委員会
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25
私学会館別館 1 階
TEL(03)3234-6691 FAX(03)3234-0550
印刷 今井印刷株式会社

<広報委員会>

担当副会長	小川彰
担当理事	明石勝也
委員長	炭山嘉伸
委員員	栗原敏利
委員員	高山忠孝
委員員	田尻利勝
委員員	小口見裕
委員員	跡見永寛子
委員員	冲永寛子
